



親子三世代が一緒になって楽しみました 2013チビツ子フェスティバル

8月31日、トレーニングセンターみさとで2013美郷町チビツ子フェスティバル（チビツ子フェスティバル実行委員会主催）が開催されました。この催しは親子三世代が一緒になって楽しい一日を過ごしてもらおうと行われているもので、今年で21回目を迎えます。会場には、縄ないや工作などの作品づくりコーナーのほか、救急車やパトカーに乗ることのできる職業体験コーナーなど多数のコーナーが設けられました。けん玉やお手玉、あやとりなどの昔ながらの遊びを教えてもらった子どもたちは、夢中になって楽しんでいました。

ご当地グルメを味比べ 美郷ちゃん祭

9月1日、ふれあい広場で県内ご当地グルメを集めた「美郷ちゃん祭」が開催されました。この祭は、観光客が一堂に会する場を設けて町の魅力を広くPRしようと、昨年度から実施されています。

会場には、美郷たぬ中、美郷まんまのほか、横手焼そば、能代豚なんこつ、東成瀬村のどんが焼き、町内外のラーメンなど計20店舗が出店。より多くの種類のグルメを味わおうと、家族で食べ物を分け合う姿も見られました。会場中央のステージではミニライブが披露されるなど、来場者たちは食と音楽を堪能しながら、祭の雰囲気を楽しんでいる様子でした。



美郷米やラベンダーなど町の魅力を発信 美郷中学生が東京都大田区で町のPR活動

9月4日、美郷中学校の3年生が、友好都市である東京都大田区で美郷町のPR活動を行いました。この取り組みは、町の魅力を広く発信しようと修学旅行の一環として実施しています。

3年生5クラスが蒲田駅東口、西口、大田区役所、西口商店街に分かれ、美郷米（2合入り）や町観光パンフレット、生徒が手作りしたラベンダーしおりやアロマキャンドルを配布。仁手古サイダーの試飲や豆腐カステラ、いぶりガッコ試食コーナーは多くの人で賑わっていました。通行人からは「中学生が大きな声で町をPRしている姿に感動した」「仁手古サイダーがとてもおいしかった。どうすれば購入できるのか」という声が出るなど、とても大きな反響がありました。

茶道をもっと身近に 六郷名水茶会

9月8日、浄光寺と楽宝寺、名水市場湧太郎を会場に六郷名水茶会（町観光協会主催）が開催されました。茶席を設けたのは、裏千家山崎宗誠社中と玉川遠州流千畑茶道同好会、玉川遠州流藤井晋澄社中の皆さん。町内外から訪れた参加者たちは、流派ごとのお茶の味や作法の違いなどを楽しみました。子ども連れの方や初めて茶席を訪れたという方も多く、茶道を身近に感じることができるとも、このお茶会の楽しみの一つとなっています。



作曲当時の音を再現 フォルテピアノと歌のコンサート

9月21日、名水市場湧太郎でフォルテピアノと歌のコンサートが開催されました。フォルテピアノとは、18世紀中期から19世紀初頭にかけて作られたピアノです。本コンサートは、モーツァルトやベートーヴェンなどの曲目を作曲家たちが当時使っていたフォルテピアノで再現しようと、フォルテピアノ奏者の丹野めぐみさんとバスバリトン歌手の三浦栄治さんが各地を回って開催しています。今回、丹野さんが町の友好都市である東京都大田区在住ということきっかけに、初めて町でコンサートを開催することとなりました。

コンサートでは、フォルテピアノのしっとりとした曲調に合わせて三浦さんがラテン語で歌声を披露。集まった約90名の聴衆は時折、目を閉じて曲に耳を傾けるなど、作曲当時の情景に思いを巡らせている様子でした。



いつまでもお元気で 美郷町敬老会

美郷町敬老会が9月21日に美郷町北体育館と美郷町中央体育館で、22日に美郷総合体育館リリオスでそれぞれ開催され、満75歳以上の3,977名が招待されました。

各会場では美郷町長寿番付や、今年新たに敬老会に招待された方々が誕生した昭和12年、13年の出来事が紹介されました。式典後には、コーラス指導者の中村裕子さんが健康増進講話を実施。音楽に合わせて楽しく体を動かす方法を実施しました。さらに、各幼稚園・保育園園児のお遊戯、町民有志による演芸アトラクションなどが披露され、招待された皆さんは終始笑顔で過ごしていました。



おもてなしの実践

美郷町長 松田知己

風



空き校舎活用に係る契約締結式で握手を交わす松田町長

みなさんはかつての朝の連続テレビ小説、「どんど晴れ」をご記憶でしょうか。岩手の老舗旅館を舞台に若女将が奮闘するドラマで、私には主演女優の比嘉愛未さんの爽やかな印象（私はそれ以来ファンの一人です）が残っているとともに、旅館玄関の扁額「来者如帰（来る者帰るが如し）」を象徴にした「おもてなしの心」が深く印象に刻まれているドラマです。

その「おもてなし」、先月の

オリンピック招致プレゼンテーションで滝川クリステルさんが取り上げました。取り上げた背景には、「おもてなし」が海外にアピールできる日本の誇るべき文化であり、海外の方も認知しているという分析があったからだろうと思います。そして私は、そのスピーチを聞いて反射的に「どんど晴れ」を思い起こしました。つまり、私にとってのおもてなしの端緒は、このドラマにあるということだと思います。それだけいいドラマだったわけですよ、私にとっては…。

しかし、改めて「おもてなしとは何か」ということを深く考えてみると、これまた難しいことも再認識いたします。心配りの不足は相手を満足させず、配慮をし過ぎるとかえって相手に

負担を感じさせる、ちょうど夏目漱石の「草枕」の冒頭文と同じような心境です。だからこそ具体の「おもてなしの意識」と「おもてなしの所作」は、結果的に奥深いものになると思うところですよ。裏返すと、おもてなしの実践には基本的に人間観察と自分磨きが付いて回ることだろうと思います。

さて、そういうおもてなし、今月はみなさんで意識したいと思います。JR東日本の秋田デスティネーションキャンペーンが始まるからです。美郷町関係では、10月12日～14日にかけて町内の鉄道を蒸気機関車が走ります。また、10月26日～27日の美郷フェスタは関連行事です。県外のお客様もいらっしゃると思います。得難いこの機会、是非ともみなさんで美郷を売り込みたいと思います。そのためにもどうか足を運んでください。そしてイベントを盛り上げるといっておもてなし、まずはみなさんで実践しましょう。